

群 教 セ	G01 - 02
	平 17.230集

小学校低学年国語科音読練習支援教材 「おんどく ん」の作成と活用

特別研修員 石川 昭 (太田市立中央小学校)

〈研究の概要〉

本研究では、小学校国語科領域「読むこと」の音読練習での活用を目指して、音読練習支援教材「おんどく ん」を作成した。作成に当たっては、Macromedia Flashのアニメーション、音声及び動画を用いてWeb形式でまとめた。本教材を授業で活用することにより、音読のポイントを理解することや、いろいろな音読練習の方法を学ぶことに役立つことを検証した。

キーワード 【国語 - 小 音読練習 学習方法 コンピュータ アニメーション】

主題設定の理由

小学校学習指導要領国語科第1学年及び第2学年「読むこと」の目標に「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにすると共に、楽しんで読書しようとする態度を育てる」とある。小学校低学年の時期に読書の楽しさを知ることは、読書を通じて生活を豊かにするために大切なことである。そして、読書に親しむ習慣は自然発生的に生まれるのではなく、教師や家庭の支援、地域の協力などによって培われていくものである。小学校低学年においては、話の順序を理解して、場面の様子を考えながら話の大体をとらえる読みの力が必要になる。これは十分な読みの力を身に付けることで、内容を適切に理解できるようになり、読書の楽しさを感じられるようになるからである。

本校では、基礎学力の向上を目指して、各家庭と連携・協力して自主学習に取り組ませている。その中で国語の読みの力を育てるために、音読練習や読書を推奨している。しかし、個々の児童をとりまく状況は様々であり、必ずしもすべての家庭で十分な学習が行われているとは言い難い。家庭学習が不十分な児童に対して、その不足分を学校で補えばよいのだが、授業での一斉音読練習では、練習の不十分な児童ほど読み間違いやごまかしが多く、十分な指導を行うことが難しい。また、そのような児童は基本的な読みの力が不足しているため、一文字一文字読む「拾い読み」になってしまい、読書の楽しさも感じるできない。国語の読書量と読解力には密接な関係があり、

たくさん読むほど理解が深まるため、低学年のうちに音読の技能を高めて、読書の習慣を身に付けさせることは、すべての児童について、その後の学力向上に有効となり、必要なことである。

そこで、適切な音読のポイントを表示したり、いろいろな音読練習の方法を体験できたりする支援教材を開発し活用することで、様々な音読練習の方法を学び、進んで音読練習に取り組めるようになる考えた。コンピュータは音声や動画を再生できて、児童が興味をひきやすい学習道具である。また、個々の児童の進度に合わせて練習を進めることもできる。音読練習に欠かせない反復練習にも適している。そこで、コンピュータを用いて一人一人が音読練習を行える音読練習支援教材を作成しようと考え、本主題を設定した。

研究のねらい

小学校低学年国語科における音読練習での活用を目指して、音読のポイントを理解することに役立ち、いろいろな音読練習の方法を学ぶことに役立つ支援教材を作成し、授業実践を通してその教材の有効性を明らかにする。

研究の見通し

Macromedia Flashで作成したアニメーションを用いて音読練習支援教材を作成し授業で活用すれば、音読する時の姿勢や口の形・声の大きさのポイントを視覚と聴覚から理解できるようになるとともに、児童がいろいろな音読練習の方法を学び、

意欲的に音読練習に取り組めるようになるであろう。

研究の内容

1 音読練習支援教材「おんどく ん」の概要

(1) 基本的な考え方

本教材は、小学校低学年の児童を利用対象とし、国語科の授業を指導場面として作成する。また、補習学習として休み時間や放課後にも活用できるように考え、低学年児童が扱いやすいようにマウスのみで操作できるようにする。

ア 音読する時のポイントについて

小学校低学年の児童が読書の楽しさを感じるためには、文章を「り・ん・ご・を・た・べ・る。」のような拾い読みではなく、「りんごを・たべる。」のように文節を意識して読む必要がある。そして次の段階として、「(どのような)りんごを(だれが・どんなふうに)たべる。」のか、内容を考えて読む必要がある。そのように読む力を身に付けるためには、繰り返しの音読練習が必要であり、それにより、はっきりとした声で、すらすらと読めるようになるのである。

はっきりとした声で音読をするためのポイントとして、適切な姿勢・口の形・声の大きさの三つがある。そこで本教材では「読む前の確認」のページとして、「読む姿勢」「口の形」「声のレベル」のページを設定する。これらは、大きな声でしっかりと読むために、低学年においてしっかりと身に付けさせるべき学習内容である。

イ いろいろな音読練習の方法について

音読は繰り返し練習することで上達する。しかし、同じ練習方法を繰り返すことは、単調であり、児童にとって退屈に感じることもある。いろいろな音読練習の方法を用いることで、児童は楽しみながら繰り返し練習が行えるようになる。音読練習には、様々な方法が開発されているが、本教材では一般的な次の方法をもとに教材開発を行う。

基本的な読みの練習(一人で行う練習方法)

・はさみ読み

文節の上下を指ではさむようにして読む方法。文節を意識した読みの学習に適している。

・後追い読み

教師の範読に続いて、まねをして読む方法。アクセントなどの学習に適している。

・リズム読み

一定のリズムに合わせて練習をする方法。すらすらと読むことを意識させるのに役立つ。

発展的な読みの練習(複数名で行う練習方法)

・一文交代読み

一文ずつ交代で読む練習の方法。読み手の順番を変えることで繰り返し練習ができて、読みの習熟を図るのに適している。

・役割読み

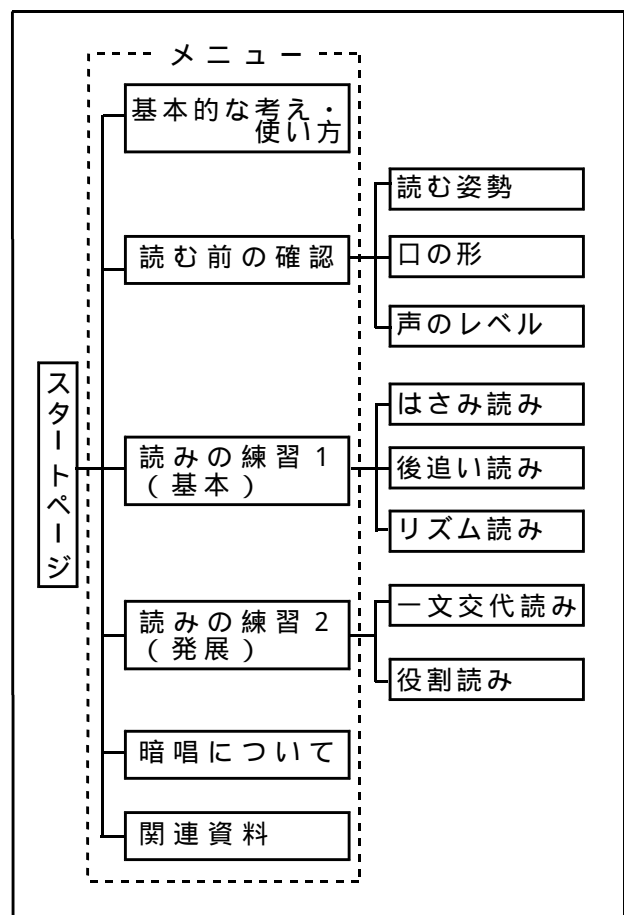
登場人物の会話や地の文の役割を決めて練習を行う方法。内容の理解を深めて、楽しく練習が繰り返せる。

(2) 本教材の構成

本教材は図1の構成に従ってHTMLやMacromedia Flashを用いて作成した。

また、本教材で扱う例文は低学年児童が興味をもって取り組めるように昔話を題材に作成する。

図1 音読練習支援教材「おんどく ん」の構成



(3) 動作環境

基本OS Microsoft Windows 98/ME/XP

プラグイン Macromedia Flash Player

画面解像度 1024×768ピクセル以上

2 音読練習支援教材「おんどく ん」の内容

(1) スタートページ

スタートページでは教材に登場するキャラクターを表示させた(図2)。アニメーションを用いることで楽しみながら学習する雰囲気を生じさせる。キャラクターとして、児童と同じ立場で音読練習を行う「オンドくん」と教師的な立場で説明を行う「すらすら先生」を作成した。

スタートボタンをクリックした後にメニューページから「基本的な考え・使い方」のページや「読む前の確認」のページ、「読みの練習1(基本)」のページ、「読みの練習2(発展)」のページ、「暗唱について」のページ、「関連資料」のページを使用目的に応じて選択できるようにした。

(2) 「読む前の確認」のページ

ア 「読む姿勢」のページ

「読む姿勢」のページは、「すらすら先生」が望ましい姿勢について説明をする前半部分と、「オンドくん」に適切な姿勢をさせる後半部分で作成した(図3)。アニメーションを利用して、落ち着きのない姿勢を提示し、その上で良くない箇所をクリックすることで「オンドくん」の姿勢を一つずつ正していくようにした。良くない箇所には赤丸を表示することで強調するようにした。

イ 「口の形」のページ

「口の形」のページは、「すらすら先生」が口の形について説明をする前半部分と、「オンドくん」と一緒に口の形を確認する後半部分で作成した(図4)。前半部分では、「すらすら先生」による説明の後に、動画を用いて、「あかさたな...」「いきしちに...」と五十音の口の形を表示した。後半部分では、「あ・い・う・え・お」のボタンを選択することで「オンドくん」に「あ・い・う・え・お」の口の形をさせて児童が自分で確認できるようにした。その際に、音声も表示することで児童が意欲的に学習できるようにした。

ウ 「声のレベル」のページ

「声のレベル」のページでは、場に応じた声の大きさを確認する。声の大きさのレベルを四段階として、「1」は隣りの人と話す小さい声の大きさ、「2」はグループで話す時の声の大きさ、「3」は教室で発表するための大きめの声の大きさ、「4」は体育館などで発表を行うための非常に大きい声の大きさとした(図5)。そして、低学年の児童が理解しやすく、興味をもって取り組めるように、声のレベルを数字と動物で表示するよう

図2 スタートページ



図3 「読む姿勢」のページ

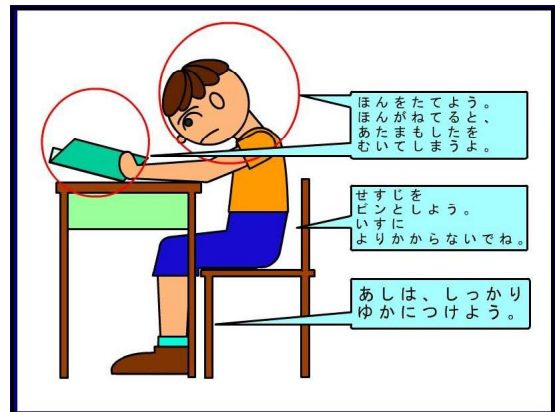


図4 「口の形」のページ



図5 「声のレベル」のページ



にした。また、視覚と聴覚から声の大きさが実感できるように声のレベルに応じて再生する音量と「オンドくん」の口の大きさが変化するようにした。

(3) 「読みの練習1(基本)」のページ

ア 「はさみ読み」のページ

「はさみ読み」のページでは音読の苦手な児童に多い、拾い読みを改善するために文節ごとに読む「はさみ読み」の方法を提示した(図6)。前半・中盤・後半の三つの部分で構成して、前半部分では、拾い読みを、中盤部分では「はさみ読み」、後半部分では行ごと・一文ごとに読む読み方を提示して対比できるようにした。それぞれの場面で、指のアイコンを表示することで実際に児童が本を使って音読練習をする際の参考となるようにした。

イ 「後追い読み」のページ

「後追い読み」のページでは「すらすら先生」の範読の後に続いて、音読の練習をする「後追い読み」の練習が体験できるようにした。「すらすら先生」のボタンをクリックすることで範読となる音声が一文ずつ再生されていく。児童はその音声を参考にしながら音読練習を行い、「後追い読み」の練習方法を理解する。本ページでは「はさみ読み」のページの学習を踏まえて、一文ずつ例文を読むようにした。ページの最後に学校の先生や友だち及び家の人と同様に練習することを伝えて、その後の音読練習に生かすようにした。

ウ 「リズム読み」のページ

「リズム読み」のページでは、リズムに合わせて読むことで、すらすらと読めるようにする練習方法が体験できるようにした(図7)。児童が興味をもって取り組めるように、太鼓を叩くアニメーションが表示され、太鼓のリズムが再生される。ゆっくりとしたリズムを再生するパターンと、やや早いリズムを再生するパターンの二種類があり、児童が自分の音読の学習状況に応じて選択できる。本ページでも「はさみ読み」のページの学習を踏まえて、一文ずつ読むようにした。

(4) 「読みの練習2(発展)」のページ

ア 「一文交代読み」のページ

「一文交代読み」のページでは、二人で一文ずつ交代で読む音読練習の方法を体験できるようにした。先に読むか・後に読むかを選択してコンピュータの「すらすら先生」と交互に読んでいく。また、「すらすら先生」と児童一人で読む場合と

児童二人で読む場合が選択でき、二人で1台のコンピュータを使う状況に対応できるようにした。このページでも「後追い読み」のページと同様に学校の先生や友だち及び家の人と練習することを伝えて、その後の音読練習に生かせるようにした。

イ 「役割読み」のページ

「役割読み」のページでは、会話文を含む例文を表示して、登場人物や地の文の役割を決めて、音読練習をする方法が体験できるようにした(図8)。初めに、登場人物のアイコンを会話文上部の余白にドラッグ&ドロップすることで、各会話文がだれの言葉であるかを作業を通じて児童に確

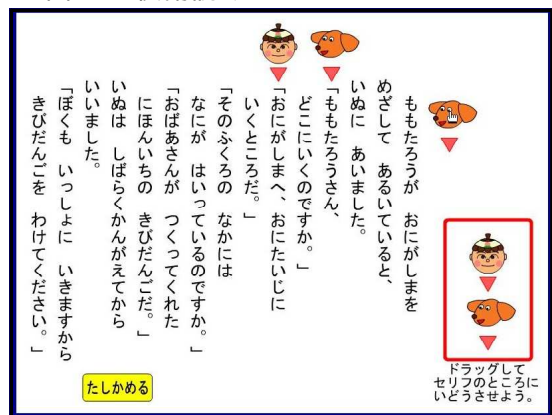
図6 「はさみ読み」のページ



図7 「リズム読み」のページ



図8 「役割読み」のページ



認させる。次に自分が分担をする役割を選択して、音読練習に取り組む。コンピュータの「すらすら先生」と児童一人で読む場合と、「すらすら先生」と児童二人で読む場合が選択でき、二人で1台のコンピュータを使う状況にも対応できるようにした。

- (5) 「暗唱について」のページ
「暗唱について」のページでは、暗唱の効果や

練習の仕方について説明をするようにした。

- (6) 「関連資料」のページ

「関連資料」のページは教師向けのページである。小学校低学年の音読指導に役に立つような関連資料を表示するようにした。教室掲示用に利用できる読む姿勢や口の形・声のレベルの図、音読練習の自主学習用に活用できる評価表を表示するようにした。

3 実践の結果と考察

(1) 授業実践

単元名 ようすを考えて読もう 「お手紙」

対象 太田市立中央小学校2年3組 26名

単元の目標

- ・場面の移り変わり、登場人物の様子や気持ちを想像しながら読む。
- ・読み取った内容について語や文のまとめ、会話の内容や言葉の響きを考えながら、音読をする。

検証の観点

- ・本教材が音読をする際の適切な姿勢や発音、声の大きさなどのポイントを理解する上で有効であったか。
- ・本教材が音読練習の方法を学び、意欲的な音読練習への取組に有効であったか。

指導計画（ は本教材の活用場面）

時数	主な学習活動	支援と指導上の留意点	評価の観点
2	本教材を用いて、音読についての基礎的な学習をする。	はじめに簡単なコンピュータの取扱い上の注意や教材の使い方をプロジェクタを用いて説明する。 「読む前の確認」のページを用いて姿勢や口の形、声の大きさの確認をさせる。	適切な姿勢・口の開け方・声の大きさで読むことができる。
11	「お手紙」の読み取りを行う。	各場面ごとに、会話文に気をつけて、登場人物の心情を読み取らせる。	本教材を直接活用しないので省略する。
2	本教材を用いて役割読みの学習をした後に、グループごとに音読練習を行う。	会話文がだれの台詞であるか、「役割読み」のページを用いてやり方を確認する。役割を交換しながら、繰り返し読みの練習を行う。	役割読みの方法を理解して、意欲的に練習できる。
3	いろいろな方法で音読を行う。	「読みの練習」のページを使って、いろいろな読み方の学習をする。登場人物の行動や気持ちなどを考えて、適切な表現で音読発表を行う。	読む速さや強弱、明暗などに気をつけながら、登場人物の心情に注意して音読ができる。

(2) 結果と考察

授業は、コンピュータ室に、プロジェクタを用意して本教材を提示しながら行った。

図9 授業の様子



また、2年生という学年を考慮して、二人で1台のコンピュータを使って学習した(図9)。二人で

操作することで、コンピュータの扱いに、不慣れな児童も互いに相談しながら取り組むことができた。

はじめに、本教材を用いて、音読について基礎的な学習をする授業では、スタートページの画面にキャラクターのアニメーションが表示されると、児童から歓声が起こり、意欲的に学習に取り組もうとする態度が見られた。「読む前の確認」のページを使って、姿勢の確認を行った時には、すべての児童がマウスを操作して「オンドくん」

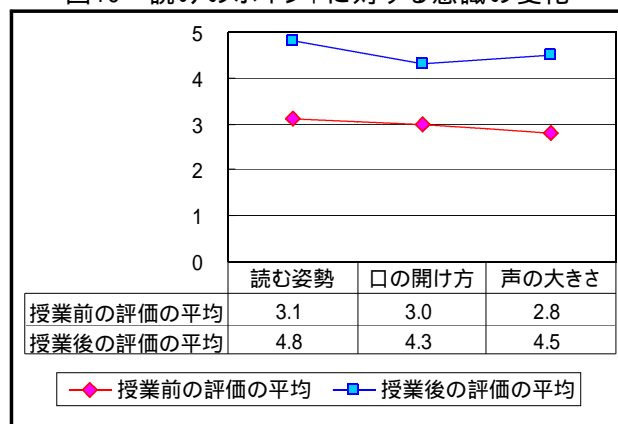
を適切な姿勢にすることができた。そして授業後の確認においても、適切な姿勢を意識して音読をする児童が増えてきた。また、姿勢と同様に口の形や声の大きさについても気をつけるようになった児童も増えてきた。

次に、本教材で役割読みの学習をする授業では、26名中22名という予想よりも多くの児童がドラッグ&ドロップを適切に行うことができた。その理由として、本教材がマウス操作のみで行えることが考えられ、低学年児童でも本教材を自由に扱い、進んで学習が進められることが分かった。また、ほとんどの児童が自分で会話文に話している登場人物の名前を書き込むことができ、順調に役割読みの練習に取り組むことができた。

そして、いろいろな方法で音読を行う授業では、本教材を用いて、主体的に音読練習の方法を調べて、グループごとに音読練習が行えた。

本教材を使つての授業の前後で、「読む姿勢」「口の開け方」「声の大きさ」について、どの程度意識しているか、5段階の自己評価アンケートをとったところ図10のような変化があった。

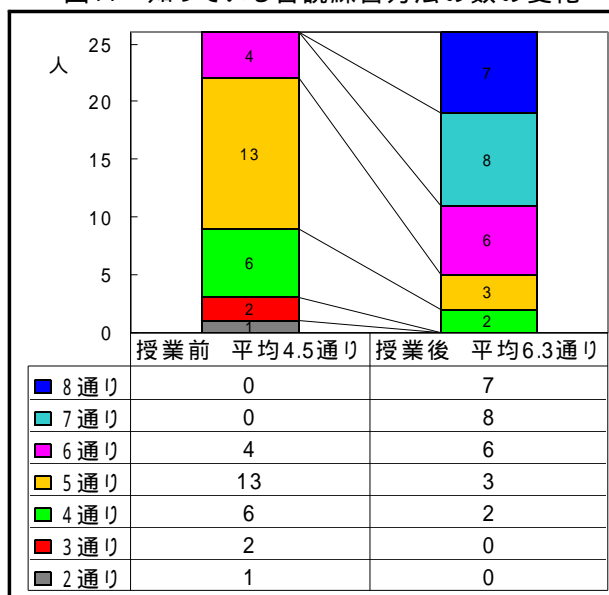
図10 読みのポイントに対する意識の変化



さらに、知っている音読の練習方法についても、授業前が平均4.5通りであったのに対して授業後には平均6.3通りと増加している(図11)。音読練習が好きと答えた児童数も51.9%から73.8%へと増加して、意欲的に音読練習に取り組めるようになった。

これらのことから本教材を用いることで適切な姿勢・発音・声の大きさの音読のポイントを多くの児童が理解したことが分かった。また、音読練習の方法がたくさん学べたことで、音読練習の幅が広がり、音読練習に意欲的に取り組めるようになったことが分かった。

図11 知っている音読練習方法の数の変化



研究のまとめと今後の課題

本研究では、音読練習のポイントを理解すると共に音読練習の方法を学び、意欲的に音読練習に取り組めるようになる支援教材「おんどく ん」を作成した。これを授業で活用したところ、以下のことが明らかとなった。

視覚と聴覚から理解できるように、Macromedia Flashのアニメーションを用いた教材を作成したことにより、音読する時の適切な姿勢や発音・声の大きさなどのポイントを理解する児童が増え、しっかりと練習が行えるようになった。

いろいろな音読練習の方法を学べたことで、音読練習の幅が広がり、意欲的に音読練習に取り組む児童が増えた。

今後の課題として、身に付けた音読練習の方法を授業で活用し、さらに向上させていく必要がある。また、読書の楽しさを味わわせるために良い本を紹介する機会を増やす必要を感じた。

参考・引用文献

- ・山田 一 編 鎌田 哲治 著 「『読む力』を確実に育てる」 明治図書(2003)
- ・ITフロンティア 共著 『Flash ActionScript 逆引き大全550の極意』 秀和システム(2005)
- FLASHは、Macromedia.incの米国及びそのほかの国における商標、又は登録商標です。

(担当指導主事 今井 俊一)

